

135
1470

一府十九縣酒造家組合聯合會會報第三回

No 6712
2/11/25

067902-000-8

特67-895

一府十九縣酒造家組合聯合會會報 (第三回)

[出版者不明]

[M23. 11?]

CDL-0002



會報發行ノ主旨

- 一本報ハ一府十九縣酒造家組合聯合會會報ト名ケ各組合ニ一冊ヲ配賦シ本會ノ報告書トシテ年四回之ヲ發行シ報告、通知、照會、回答、等凡ソ事務所ヨリ聯合組合ニ通達スルモノハ本報ニ掲載スルヲ以テ定式トス
- 但緊急ノ場合ハ此限ニ非ラス
- 一本報ハ本會事務所ノ成績及聯合組合ノ通信實況且ツ組合員ニ係ル事項ヲ雜記トシテ摘記ス
- 一本報ハ組合員ト組合及聯合會トノ間ニ氣脈ヲ通シ會況ヲ知ラシムルヲ以テ主旨トス故ニ政事ニ渉ル事項ヲ論議評說スルヲ得ス
- 一聯合組合ニ於テ其組合員ニ配付セシメ爲メ一冊金二錢ツ、ノ實費ヲ支拂フヘシ但シ郵便及運賃ハ此外トス
- 一會員ニシテ直接本報ノ配送ヲ得ント欲スルモノハ實費トシテ一冊金二錢及郵便稅一冊ニ付二錢ツ、ヲ支拂フヘシ
- 一本報ニ係ル通信及ヒ送金等ハ總テ本會事務所内會報編纂委員宛ニスルヲ要ス
- 但郵券ヲ代金ニ換フル時ハ一割ヲ増スヘシ

1/10/10
25/10

會報發行ノ主旨

本會創設以來日尙淺シ然レモ諸氏カ當初ニ於ケル意志ノ發スル所義氣ノ勵シ所遂ニ創業ノ功ヲ奏セリ、蓋シ諸氏カ業ヲ愛スル性情ノ厚キニ依ル、其運動舉措ノ剛毅果敢ナル不羈獨立ノ大聯合ヲ組成シテ卓然拔クヘカラサルノ勢アル、以テ他業ニ誇ルヘシ今ヨリ以後又々益々進ノテ稅則ノ改正ヲ國會ニ求メ外交條約ノ對等ヲ當路ニ論スル等凡ソ本業ノ進路ニ横ハルモノ千障万碍氣ヲ鼓シテ撤シ去ラントスルニ至レリ、知ル夫レ五指之更々彈スルハ捲手之一極ニ若カス萬人之更々進ムハ百人之俱ニ至ルニ如カス我一府十九縣同業者カ相容レ相讓リ共進以テ其目的ヲ貫通セント欲スル所以ノモノ實ニ此ニ在ルヲ、然レモ捲手之挫百人ノ進モ一指一人ヲ失ヘハ則チ其勢ヲ失ハンノミ、我會共同聯絡ヲ目的トス唯其目的ヲ達スルノ具ナキ或ハ其聯絡ヲ密ニスル能ハス其極小區域ノ利害ニ拘々トシテ天下ノ大勢ヲ外ニシ一方ニ偏依シテ全体ノ痛痒ヲ感セサル如キモノアラハ實ニ本會一指ノ信ビサルカ如シ豈ニ其運動ノ自在ヲ望ム可ケンヤ、本會茲ニ感アル久シ今ヤ本會ハ會員トノ間常ニ密着親暱シテ相互情意ノ疏通ヲ啓カントシ爰ニ會報ヲ發スルニ決セリ、然レモ諸費節減ノ際限リ有ル經費ヲ以テ限リ無キ會員ニ頒ツコト能ハス故ニ有志ト相計リ會報要則掲クル方法ヲ



以テ配賦セント欲ス其記事ハ事務ノ梗概、各組合ノ通信及ヒ實況ノ畧等年四回ノ發行ヲ爲
シ以テ本會ノ運動ヲシテ圓滑ナラシムルノ機關ニ充ツ其レ會員諸氏ハ譬ハ猶本會ノ骨子本
報ハ其關節ノ如シ兩々實ニ瞬モ離ル可ラサルナリ即チ本會ノ隆盛ハ諸氏ノ隆盛ニシテ本報
ノ精神ヲシテ活動セシムル者モ亦以テ諸氏精神ノ一到ニ歸セン諸氏其勉旃

人生五十長カラサルニアラス之ヲ國家共同ノ事ニ盡セハ夢寐ノ間而已人ノ生ヲ享クル一人
一家ノ幸福ヲ護スルヲ以テ足レリトセズ祖先ノ事業ヲ顯揚シ其光彩ヲ國家ニ表彰シテ一家
ノ幸榮ト共同ノ幸榮ヲ求ムヘキハ是レ蓋シ人生處生ノ義也矣我酒造營業者諸氏ハ皆是レ有
力ノ士ナリ有力ノ才ヲ一身一家ノ事ニ專ラニセス早トニ進ンテ餘力ヲ公同進益ノ事ニ盡サ
ル、コト吾人ノ贊舉揄揚スルヲ須キス洵トニ其レ對國ノ義ヲ盡セリト謂フヘシ然レハ公利
公榮ヲ以テ道ニ當ル豈ニ一人ノ心ヲ以テ斷スヘケンヤ是ニ於テ團結ノ要起ル乃チ是レ一府
十九縣酒造家組合聯合會ノ因テ起ル所以也本會創立ノ萌芽ハ明治廿二年ノ首大憲詔下ノ前
ニ發シテ其盟ヲ訂シ義ヲ結ヒ大會ヲ起スニ至リタルハ實ニ明治廿三年三月大憲詔降ノ後ニ
在リ是レ天諸氏ノ志ヲ成スノ兆以テ此時ニトスヘシ然レハ一人ノ事ハ易クシテ衆人ノ業ハ
難シ是レ理ノ當サニ然ル所共團結納ノ間或ハ利害同カラサル有リ得失一ナラサル有リ議ヲ
其間ニ調和ス事務所ノ設ケ委員ノ選ナカルヘカラサル所以也本會ノ初メテ起ル東京事務所
ヲ以テ體トシ會員諸氏ハ以テ本所ノ五官トナリ出テハ天下ノ事ニ參覈シ入テハ地方ノ業ヲ
鼓動ス其中或ハ支部ノ成立ニ奔馳シ或ハ本部ノ設立ニ從ヒ其事ニ從マヤ書ヲ捧ケテ元老ノ
院ヲ叩キ或ハ大藏農商ノ省ヲ問フ家國ニ忠切ナル諸氏胸中ノ苦心ハ大詔ト共ニ永ク記ス可

シ吾人豈ニ之レヲ思ハサランヤ然レモ今ヤ天下ノ勢日ニ繁ク公同ノ事日ニ劇ナリ未タ以テ
 諸氏ヲ開清ノ地ニ安ニスル能ハサルヲ奈何ン、視ヨ立憲ノ政ハ今方サニ成ル帝國議會今將
 カニ開カレントス吾人參政ノ權ハ今之ヲ得タリ安ンソ吾人成業ノ道途ニ上ルモノ却テ今日
 以後ニ在ルヲ知ラサランヤ夫レ輸出入ノ不均ハ我業ノ弊事ニアラスヤ外交ノ無對等ハ我業
 ノ弊事ニアラスヤ法律ノ繁苛ハ我業ノ弊事ニアラスヤ此陋態ヲ脱シテ吾人ノ特性ヲ發揮ス
 ルモノ内、同業ノ共團結納ノ勢ヲ強クシ外、參政ノ大權ニ遵由シテ斯業從來衰退ノ源ヲ杜
 絶シテ斯業將來ノ盛運ヲ策セスシテ可ナランヤ、嗚呼夫レ吾人發軔ノ期至ル到着ノ日近キ
 ニ迫マレリ今日以往ノ事寧ロ行季ヲ戒ムルノ間ニ止マレリ期己コ至ル豈晏然トノ醉夢ノ中
 ニ居ルヘケンヤ我聯合有志會員諸氏ハ此勢ヲ看破シテ今回第三常議員會ヲ良機トシ目下ノ
 大策長計ヲ提出シ本會ハ直ニ之ヲ容レ會合日ヲ重テ以テ會規ヲ釐革シ運動ノ費ト其出途ヲ
 定メ帝國議會ニ對スル請願、條約改正ニ對スル意見ヲ上ルコト等ヲ議了シ委員諸氏付託ノ
 責ヲ荷フテ事ニ從フ其成果ヲ觀ンコト近キニアラン夫レ天下ノ事、一事一業其費ヲ要ス是
 レ事理ノ然ラシムル所我會運動ノ首ニ會約ヲ更メ經費ヲ定メ其徵課ノ法ヲ定メラレタルモ
 其意一ニ此ニ出ツ諸氏用意ノ周到以テ見ルヘシ且夫レ我業ノ大計長策ヲ謀ル緩漫柔弱ノ
 狀ヲ以テ能ク達スヘキニアラス諸氏ノ之レヲ帝國議會特ニ初期ノ帝國議會ニ法律ノ改正ヲ
 託スルカ如キ今日條約改正ノ時ニ投シテ對等條約ヲ主張シテ彼ノ奸商佞賈ガ治外權ヲ恃ミ
 テ不正ヲ爲スノ害毒ヲ除去セントスルモ亦以テ諸氏ノ意ヲ見ルヘシ抑 世事日ニ多ナリ之
 レニ處スルノ道亦多ナラサルヲ得ス團結ノ事今日ニ於テ特ニ其要ヲ知ルヘシ我會員諸氏ノ
 公事ニ切ナル身ヲ以テ之ニ當ル同志ヲ得スハ將サニ獨行センノミト諸氏皆此ノ如シ今日
 大議ノ熟スル所以、豈ニ偶然ナランヤ吾人事務ノ局ニ任スルモノ其高義ニ感スルノ外復タ
 言フ所ヲ知ラス抑モ諸氏ノ志ヲ成ス諸氏忠誠ノ至情ニ發スト雖モ本會ノ設ケ亦與テ力有ラ
 ン惟フニ團結ノ功ハ強力ニ對スルノ時ニ在リ一竿ヲ擧ク豈ニ多力ヲ用ヒンヤ然レモ百鈞ヲ
 擧クルノ力ハ以テ平日ニ蓄フコトナクシテ可ナランヤ非常ノ用、平日ノ養ヒヲ待ツ今日ノ
 事蓋シ非常百鈞ヲ牽クノ時也本會平日ノ設ケ此ニ滋ニ其用ニ應スルヲ得タリ本會若シ意ア
 ラハ亦誇ランノミ只タ望ム闔會幾千ノ會員諸氏今日ニ鑑ミ平居無事ヲ以テ此會ヲ視セス向
 來益協心戮力本會ノ爲メニ盡サレンコト國家ノ爲メニ冀望スル所ニシテ諸氏ノ將來ニ處ス
 ル亦此ニ存スルヲ信スルナリ今ヤ茲ニ第三回常議員會ノ顛末ヲ記スルコト當リ特ニ一言ヲ爲
 スモノ編者ノ情識ヲ筆奴ヲ驅テ此ニ至ルモノ諸氏請フ諒セラレンコトヲ敬白

明治二十三年先帝國議會招集一月

會報編纂委員識

六

一府十九縣酒造家組合聯合會議事錄

明治廿三年十月二十二日午前八時假事務所ニ於テ開會議員一同ハ抽籤ヲ以テ席順ヲ定メ着席ス其順次姓名左ノ如シ

- | | | |
|----|------|--------|
| 一番 | 埼玉縣 | 栗林安兵衛 |
| 二番 | 栃木縣 | 小堀貞吉 |
| 三番 | 神奈川縣 | 門倉多吉 |
| 四番 | 茨城縣 | 水谷龜造 |
| 五番 | 岩手縣 | 村井源藏 |
| 六番 | 千葉縣 | 板倉才助 |
| 七番 | 秋田縣 | 西村庄右衛門 |
| 八番 | 山梨縣 | 田邊七兵衛 |
| 九番 | 青森縣 | 野崎和治 |

十番	新潟縣	小田	仁作
十一番	群馬縣	金井	貢
番外		高崎	修助
書記		湯淺	順

以上

創立委員金井貢議員ニ對シ本會ハ假規則第二十條ニ據リ去八月開會スヘキ處都合アリテ九月五日ニ開會スヘキ旨各支部ニ御通知及ヒシニ當時建白書調印且ハ稅則改正アリシ等ノ爲メ埼玉、千葉、神奈川、栃木、秋田五縣ノ出席ニ過スシテ遂ニ開會ヲ爲スニ至ラス右五縣常議員諸氏ト協議ノ上其廿五日ニ延會シ再ヒ各支部ニ廣告セシニ當時ノ出席員ハ埼玉、茨城、栃木、群馬、千葉、神奈川ノ五縣ニシテ尙開會ヲ爲スニ至ラザリシ然レモ再ヒ空シク散會スルニ忍ヒス依テ有志會ヲ神田關根亭ニ開キ本會ノ前途ニ就キ協議シ規約中實際ニ適用シ難キ箇所及ヒ經費豫算同徵收法等ヲ修正セテ之ヲ常議員ノ參考トシテ配送シ而シテ十月二十日ヲ期シ必ラス上京セラレノヲ連署ヲ以テ通知スルコトニ決シ常議員諸氏ヘ右修正案ヲ添テ出京ヲ促スノ止ムヲ得サルニ至レリ然ルニ今回ハ有志諸氏モ出京セラレ誠意熱

心ニ本會ノ前途ニ就キ憂慮セラレ爲メニ建議セラル、等大ニ本會ノ勢援ヲ張ラレ而シテ常議員諸氏ハ本日ニ於テ過半ノ出席アルニ至ル本員モ有志ノ一ニ在リ若シ今回尙ホ開會スル能ハザルガ如キ場合モアラソニハ斷然本會ヲ脱スルノ決心ナリシカスク今日一場ニ會シテ議事ヲ開クニ至リシハ深ク諸氏ノ勞ヲ謝シ又タ本員ノ怡慶スル所ナリ是レヨリ議長ヲ選舉スヘキニ依リ本員假ニ議長席ニ着カン速ニ議長ノ抽籤ヲ乞フ

十番(新潟)便宜法ニ據リテ假會長ヲ以テ其儘議長ト爲サンコトヲ望ム

衆員ノ賛成ヲ以テ之ニ決ス是ニ於テ假會長滿場ニ謝シ不敏ヲ願ミス暫ク議長席ヲ汚シ是レヨリ議事ニ及ハント告グ

議長 一號ヨリ七號迄ノ議案ハ元來六月第一回常議員會ノ節議案ニ提出シタルモノナルガ去月有志會ニ於テ朱書ノ如ク修正シテ本會ニ提出セラレタリ就テハ舊案即チ墨書ノ方ヲ議案ニスルヤ又ハ修正案即チ朱書ノ方ヲ議案トスヘキヤ衆員朱書修正案ヲ以テ議案トスルヲ可トス

議長 然ラハ朱書修正案ヲ議案トスベシ

書記 第一章ヲ朗讀ス

九番(青森)一二次會ノ順序ヲ經テ確定スル普通議則ヲ取ルヤ如何

四番(茨城)便宜ニ據リ一次會ニ止メ二次會ヲ畧シテ確定議トセラレタシ

衆員四番ノ說ニ賛成ナルヲ以テ之ニ決ス

九番(青森)一府十九縣ノ名稱ハ稱呼長キニ失スルヤニ覺テ彼ノ關西聯合會ノ名稱ニ對シ關東トカ又ハ東北トカ云フ名稱ニ改メテハ如何

二番(栃木)一府十九縣ハ幸ニ幾ント連絡シ且ツ社會ニモ幾許カ知ラレタル名ナレハ今日ニ於テ改稱スルハ不可ナラン

番外 一府十九縣ノ名ハ三月以來餘程ノ資金ヲ注入シテ世上ニ知ラシメ今ヤ全國ニ於テ本業間ニ知ラサルモノナキ名稱ナレハ存シ置キタシ

九番(青森)敢テ主張スルモノアラサレハ前說ハ取消ス

議長採決 原按ニ決ス

此時八番(山梨)事故アリ退場ス

第一條衆員異議ナキヲ以テ原案ニ決ス

七番(秋田)第二條中組合聯合トアルハ在來ノ支部ヲ指シタルモノナリヤ又ハ地方小組合ヲ

指シタルモノナリヤ質問ス

番外 此組合トアルハ元來舊則ニ據ハ一縣下ヲ總括シタル一ノ團體ヲ以テ支部ト爲シ聯合
スルモノコト今日迄ノ實際ニ徴スルコ既ニ一縣ノ團體ヲ組成セシ縣ハ僅々ニシテ一縣ノ中
ニ在テ分裂セルモノ多キニ在リ故ニ強テ一縣ノ團體ヲ聯合セシムルヨリ寧ロ縣下ノ組合ニ
於テ實際合同ノ組織ヲ爲ス能ハサル場合ニ於テハ其ノ組合ノミニテ聯合シ得ヘキ道ヲ開キ
タルナリ故ニ其縣下ノ模様ニ由リ一縣ノ組合合同シテ聯合スルモ又ハ一郡一郷ノ組合ニテ
聯合スルモ本會ハ其聯合ヲ爲シタルモノヲ組合ト見做シテ名稱シタルモノナリ然レモ出來
得ル限リハ一縣内ノ組合ヲ合同連絡シテ聯合スルコトヲ望ムハ勿論ナリ

一番(埼玉)一府十九縣聯合ノ府縣名ヲ但書ニ加ヘ名分ヲ明コシタシ
衆員賛成

議長採決 一番修正說賛成多數ニ由リ之ニ決ス

十一番(群馬)議長席ヲ退キ發言スヘキナレモ便宜ヲ以テ此儘述フベシ「第三條組合トハ一
府縣内從來ノ組合ヲ合同シタルモノヲ謂フ但止ヲ得サル場合ニ於テハ一府縣内ヲ數組合ニ
分ツコトヲ得」ト改正シ別ニ一條ヲ設ケテ聯合會議員ノ選出法ヲ定メタシ一縣一支部ノ

下ニ總括スルノ困難ヨリ本條ヲ修正シタルナレモ成ルヘク現今ノ支部ニ於ケルガ如ク一縣
聯合シテ本會ニ加盟セラレシコトヲ望ム其止ヲ得サルモノニ限リテ一部分ノ組合ヲ以テ聯
合スルヲ得ルコトニセンコトヲ望ム而シテ尙一條ヲ加ヘテ第四條トシ各組合ニ於ケル議員
撰出權云々トシ順次ニ條ヲ讓ルベシ

衆員賛成

議長採決 第三條ハ十一番ノ修正說ニ決ス

九番(青森)二万石毎ニ一名ヲ増ストアリテハ二万マテハ一名ニテ二万一石ヨリ二名トナル
モノナリヤ不明瞭ニ付字義判然ニシタシ

十番(新潟)「一名ヲ増出スルノ權アルモノトス」ヲ刪リ一名ヲ増スニ止メタシ

四番(茨城)各組合ニ於ケル云々ヲ「各組合ハ聯合會議員一名ヲ出シ各自ノ組合ヲ代表セシ
ム」但一組合員ノ造石高二万石ヲ踰ユル毎ニ一員ヲ増スト」修正シタシ

一番(埼玉)一員ヲ増スト云フ如キ命令法ニテハ必ラス増サザル可ラザル譯ニテ或ハ差支ヘ
アラン依テ「一員ヲ増スコトヲ得」トシ増スル増サザルモ適宜ニ任カスベシ其他ハ賛成ナ
リ

四番(茨城)然リ然ラハ「増出スルヲ得」トシテハ如何

一番(埼玉)然ラハ異議ナシ

議長採決 衆員異議ナキヲ以テ四番ノ説ニ一番ノ修正ヲ加ヘテ之ニ決ス

十番(新潟)第五條中隨意ノ二字ヲ刪リタシ然ラザレハ所謂手前勝手ニナルノ嫌アラシ

九番(青森)適宜トシタシ

八番賛成説ヲ述ブ

議長採決 九番ノ修正衆員異議ナキニ付之ニ決ス

正午十二時三十分休息午後第一時開會

議長 四番議員ハ湊仁右衛門氏交代セラレタルコトヲ報シ引續キ第二章ノ議事ニ及ブ

書記 第二章ヲ朗讀ス

四番(茨城)第七條中役員ハ總テ名譽職トシテ報酬及旅費ヲ給スル云々ヲ刪リ實費ヲ支拂フ

コトニ改メタシ

二番(栃木)然リト雖モ之ヲ實費トスル時ハ調査上煩雜ニ勝ヘサレバ原案ヲ可トス

四番(茨城)煩雜云々ノ事ハ或ハ然ラン然レモ當任者ハ何レモ本會ノ爲メニ任シテ勞ヲ取ラ

ル、我々ノ信認スル人ナレハ煩雜ナル調査ヲ要セサルベシ若シ實費ト云フニアラサレバ盡

カセラレタル上ニ或ハ自費ヲ持出ス場合ニ至ラン

二番(栃木)豫算ニ由レバ日當一圓ナレバ實際不足ナランナレモ創業日淺ク止ムヲ得サル場

合ナレバ之レヲ決シタシ

十番(新潟)實費支給トナリテハ手數モアレバ兎ニ角原案ノマ、ニ定メ置カン

九番(青森)一條毎ニ順次ヲ逐テ議スルコトヲ望ム

議長 然リ第六條ヨリ逐條審議スベシ

四番(茨城)第六條ハ異議ナシ原案ニ賛成ス

議長採決 第六條衆員一致原案ニ決ス

四番(茨城)第七條原案賛成

十番(新潟)議員中ヨリトアルヲ常議員中ヨリトスベシ

九番(青森)原案賛成

十番(新潟)再考スルニ原案ニテ差支ナシ前説ヲ取消ス

一番(埼玉)常議員中ニテハ被選舉人ノ區域狹隘ナレバ組合員又ハ會員中ヨリトシテ其區域

擴張ノヲシ

十一番(群馬)區域ヲ擴ムルハ良シト雖モ然レモ實際其人ト爲リテ知ラサレバ選舉ニ差支チ生ズ適當ノ選舉法アリヤ

九番(青森)番外ニ同シ大畧現時ノ所改正規約ニ據リ各縣ヨリ出ス所ノ議員ハ若干名位ナリヤ

番外 仮ニ十四縣ト見做シテ七縣ハ二万石以上トシ二名ツ、チ出シ七縣ハ二万石以内トシテ一名ヲ出スモノトスルモ二十一名ノ議員ヲ得ル割合トナルヘシ

四番(茨城)元來議員ナルモノハ其縣組合ヨリ選抜シテ代表セシムル人ナレハ則チ組合中ノ人物ト云フモ可ナリ故ニ此議員中ヨリ選舉スルヲ最モ適當トス若シ地方會員中ヨリ選舉スルトセバ一々其諾否ノ照會等ヲ要シ實際差支多カラシテ本員ハ原案ヲ賛成ス

一番(埼玉)本員ノ說ハ本會場出席中代理アリ有志諸氏モ出京ノコト故若シ會員中トカシタラハ直ニ選舉等ヲ實行シ得ル場合アルヲ以テナリ

九番(青森)原案ニ賛成

四番(茨城)一番ノ說ハ別ニ建議ニセラレタシ

議長採決 別ニ動議モアラサレハ原案ニ決ス

四番(茨城)八條中本員ガ前ニ述ヘタル報酬云々改正說ハ取消スヘシ而シテ但書中「滿期再選スルヲ得」ノ八字ヲ加ヘタシ

議長採決 四番ノ修正說衆員ノ賛成ナルヲ以テ之ニ決ス

第九、十、十一、十二條衆員原案賛成

議長採決 第九條ヨリ十二條迄ハ衆員賛成ニ付原案ニ決ス

第三章ニ移ル

書記 朗讀ス

九番(青森)第十三條中六号議案徵收法ト抵觸スルハ經費ハノ下ヘ「聯合組合數ト」ノ六字ヲ加フヘシ

十一番(群馬)九番修正法說ニ賛成ス

議長採決 九番修正說衆員賛成ニ付之ニ決ス

第十四第十五兩條滿場異議ナキヲ以テ原案ニ決ス第四章及第五章ヲ議セン

書記 朗讀ス

二番(朽木)第十六條中必要ト認ムルヲ「請求アル」ト修正シタレ

七番(秋田)幹事協議員ノ下ニ「必要ト認メ」ノ五字ヲ挿入レタシ他ハ二番ノ修正說ニ賛成ナ

リ

十番(新潟)九番(青森)二番七番ノ修正說ニ賛成ス

議長採決 二番七番ノ修正說ハ滿場異議ナキヲ以テ修正說ニ決ス第十七條以下第二十條迄
衆員別ニ意見ナキヲ以テ原案ニ決スヘシ而シテ第二十條ニ印章ノ雛形ヲ畧セリ何トスベキ
トノ間ニ滿場ノ同意ヲ以テ左ノ如ク決ス

一府十九縣酒造家組合聯合會事務所之印

議長 是ニテ本會ノ規約ヲ議了セリ之ヲ以テ確定議トナスヤ否ヲ滿場ニ問フ滿場確定議ト
ナル旨ヲ以テ答フ據テ確定議トス

議長 是ヨリ第五號議案ヲ議セン

書記 朗讀ス(經費豫算額)

十番(新潟)番外ニ開ク書記俸給ハ何レノ所ニ用ユルモノナリヤ

番外 凡ソ事務所ノ設ケアレハ常務ニ從事スルモノナカル可ラサルハ當然ナリ書面ノ往

復ヨリ來訪者ノ應答或ハ會計ノ一部分ニモ當リ最モ必要ノモノトス

十番(新潟) 本會事務所ニハ書記常置スル程ノ事務ハナカル可シト思考ス兼任トシテ相當
ノ人ニ依托シ置ク方便ナルベシ

番外 事務所ヲ置キタル以上ハ是非トモ人ノ居ラヌト云フ事ハ出來得ヘカラズ殊ニ幹事ハ
地方ノモノニテ不在勝ナレハ常ニ事務所ヲ擔當スル人ナカル可ラス今日迄ノ經驗ニ由レハ
書狀ノ來ルモノ三百餘應答通知等ノ發狀ハ殆ント五百通一府十九縣ノ多キ總テ文通ヲ以テ
用辨スルカ放ニ實際ニ事務ヲ舉ゲンコハ幹事一名書記一名位常置セサレハ逆モ處理シ難カ
ラン

議長 從來事務所ヲ高崎氏ニ托シ置キタレハ本會處務一切全氏ニ於テ擔當セラレ今日ニ至
ルモ此上尙同氏ヲ累ハス次第ニモ行クマシ今回幹事等ヲ選舉スレハ理事ノ名ハ消滅シ尙更
書記ハ必要ナラン

番外 經費ハ成ル可ク節減スル目的ヲ以テ原案ヲ編成セルモノ故書記給ノ如キ家賃ノ如キ
到底立派ナルモノハ得難カラン然レモ目下本會ノ經濟ヲ斟酌シテ斯クハ決セシモノナリ參
考迄ニ述ブ

四番(茨城) 此原案ニ報酬ノ科目ナシ規約ト抵觸ス如何又幹事ノ旅費其他ノ費用ニ於テ相當ナリヤ否ヤノ感アリ事務ノ如キ實際繁閑ヲ推察シテ將來ノ運動ニ差支ヘナクセザレハ能ハザルナリ

九番(青森) 事務及ヒ書記ハ幹事ノ任ニアレハ我々議スルノ必要ナシト思考ス依テ本員ハ原案ヲ賛成ス

二番(朽木) 書記俸給并ニ雇人費ト修正シテハ如何

四番(茨城) 二番ノ修正說ニ賛成ス旅費ハ一名五圓ナレト之ハ往復ナランカ然ラバ二圓五拾錢トシテハ如何

番外 遠近アレバ一概ニ極メ難シ近キハ二圓五十錢ニテモ可ナラン然レモ遠方ニ至リテハ不足ヲ生セン故ニ遠近折衷シテ五圓トセシナリ

四番(茨城) 然ラハ異議ナシ原案ニ賛成ス

十番(新潟) 幹事旅費ノ項ハ初メニ列擧シタシ

議長採決 八項迄ノ金額ハ衆員賛成ニ依リ原案ニ決シ一項ハ二番ノ修正ニ依リ書記俸給并ニ雇人費ト改ムベシ

四番(茨城) 廣告料トハ如何ナル性質ノモノナリヤ

番外 之レハ會議ノ節又ハ本會運動ノ模様ヲ新紙ニ掲載シ善ク本業ノ仕事ヲ社會ニ知ラシムルノ必要アレハ此費用ヲ設ケタリ

十番(新潟) 通常會議費ノ但書一ケ年ヨリ五日迄ノ十一字ヲ刪リ同辨當ノ二字ヲモ削リタシ

二番(朽木) 十番ノ十一字ヲ刪ルハ賛成ナレモ辨當ノ二字ハ置キタシ會議ニ際シテ喫飯ノ爲メ他出スル杯ノ爲メ意外ノ時間ヲ費スコトアレハナリ

十番(新潟) 然ラハ辨當ノ二字ハ置クモ可ナリ

議長決ヲ採ル滿場一致ニ決ス

十番(新潟) 雜費ハ如何ナル必要アリヤ

番外 豫算如何ニモ切詰ナルヲ以テ豫メ定メ難キ雜費ニ充テタルモノナリ

十番(新潟) 流用ハ許スノ至當ナルヲシル依テ之ヲ刪リ豫備金ニ拾圓ヲ増シテ三十圓ト致シタシ

二番(朽木) 四番(茨城) 共ニ原案ヲ賛成ス然レモ流用ヲ許サレハ實際差支ヲ生セン

議長採決 原按賛成多數ニ依リ原按ニ決シ流用ハ許ストスベシ
議長 本案中他ノ項ニ付キ御意見如何

二番(朽木) 是レヨリ外ニ減シ方ナカルヘシ既ニ修正セシ外ハ原按ノ通ニテ可ナラン

一番(埼玉) 十一番(群馬)賛成ス

議長曰 五號議案ハ此レニテ終レリ衆員異議ナキヲ以テ確定議トセン是レヨリ第六號議案
ヲ議セン

書記朗讀ス(徵集法)

十番(新瀛) 本員ハ組合數ハ四分石數ハ六分ヲ改メ平等ニ五分五分ニ徵収シタシ

二番(朽木)之レニ賛成ス

三番(神奈川) 原按ヲ可トス

九番(青森) 此徵収法ノ適不適ハ以テ本會ノ消長ニ關スル要件ナレハ最モ不衡平ナキヲ希
望ス本員ハ總テ石數ニ課スルノ衡平ナルヲ知ル若シ之ヲ五分五分等ニセハ支部ノ設立ニ困
難ヲ來スナラン

番外 如何ニモ石數割ハ至當ナランカナレトス斯クテハ大石數ノ組合ハ頗ル多額ヲ負擔スル
ニ至リ又一縣聯合内ノ成ラズシテ僅ニ一小組合ニ止マル部分ハ負担輕シト云フ有様ニ至リ
折角盡力シテ多數ノ聯合ヲシタルモノハ不幸ヲ來タシ又盡力セザル所ハ幸ヒヲ見ルト云フ
如キ有様ニ陷レハ若シ此先石數ニノミ課スル時ハ恐ラクハ地方組合ノ聯合ヲ組織スル能ハ
サルニ至ラン故ニ組合ニ四分石數ニ六分位カ適當ト認メ組合ト石數トニ分ツヲ要ス御參考
迄ニ申述ス

九番(青森) 然ルナランガ元來本會ハ營業上ノ福利ヲ計ルニ在リテ石高多ケレハ其利モ從
ヒテ多ク得ル筈ナレハ石數ニ課スコトニシタシ

四番(茨城) 九番ノ説ハ至當ナレトモ將來會員ヲ誘導スルニ差支ヲ生スヘシ

九番(青森) 今ノ所ニテ小組合ニテモ遂ニハ團結スルヲ至要トス此場合ニ於テ組合ニ負擔
ヲ重クスル時ハ小組合スラ成立ツニ不便アラン

四番(茨城) 九番ノ説ハ正當ノ理由ナレ共我縣下ノ如キ實際會員ヲ誘導スルニ當リ是丈ノ
費用ヲ負擔スヘキ義務アリナド、云フキハ到底加盟スルモノナケン然ル時ハ本會ノ勢ニ迄
及ホス次第ナレハ現時ノ所ニテハ只管ヲ誘導方ノ都合ヲ計ルニ如カス他日進歩ヲ待テ又改
正スルハ兎モ角モ先ツ五分五分位ニ致シ置クヲ相當ナリトス

九番(青森) 凡ソ事ヲ處スルハ道理ニ訴ヘザルヘカラス殊ニ本會ノ如キ多數ヲ以テ組織スルモノハ總テ事情ニ依ラス正當ノ道理ヲ履テ處理セサレハ恐ラクハ苦情ヲ惹起シテ基礎ヲ固ムルニ難カラシ

議長曰ク暫時休憩セン時ニ午後第三時ナリ

午後第三時三十分開會

十番(新潟) 組合ヲ四分トシ造高ニ六分トシタシ

議長曰ク最早論議尽キタリト見認ム故ニ決テ取ラン

十番(新潟) ノ説ヲ賛成スルモノ過半数ニ依リ可決ス

議長曰ク第六號議案ハ茲ニ議了ス之ヲ確定議トスルヤ否ヤ

満場一致ヲ以テ確定ス

議長曰ク此出席員中代理モアレド先ニ一番ノ建議モアレハ此出席員中ヨリ幹事ヲ撰擧セン

尙今般限リ出席員中ヨリ協議員ヲ選出スルコトヲ得ルトシテ役員ノ選擧ヲ爲サントス満場

ノ諸氏異議ナクハ直ニ投票セラレヨ

満場異議ナキヲ以テ直ニ幹事ヲ投票スルコトニ決ス書記投票紙ヲ配付シ直ニ開札ス其結

果左ノ如シ

十点 金井貢 十点 小堀貞吉

一点 小田仁作 一点 小山又八

多數ニ依リ金井貢小堀貞吉幹事ニ當撰ス二氏固辞スルモ衆員ノ推ス所ト爲リ兩氏之ヲ諾ス尋テ常議員ノ選舉ヲ行フ

十点 門倉多吉(神奈川) 七点 田邊七兵衛(山梨)

六点 田畑勝次郎(静岡) 六点 大和田貞次郎(茨城)

五点 小山又八(埼玉)

補欠員

三点 和田榮二(長野) 三点 小田仁作(新潟)

議長之ヲ報告ス

且ツ曰ク本日ハ諸君ノ御熱心ニ由リ議事意外ニ据取レリ最早第八時ヲ報シタレハ今日ハ是レニテ閉會シ明日ハ午前第八時ヨリ會合セラレシコトヲ望ム

午後第八時二十分ナリ

十月廿三日午前八時開會出席議員十一名

議長 今日ハ第七號議案ヲ議セシ就テハ諸氏モ既ニ知ラル、如ク今回ノ會議ハ實ニ本會ノ存廢ニ關スルト云フ可キ時機ニ際シタルヲ以テ各地ノ諸氏ハ本會ニ前ノシテ有志會ヲ開キ其意見トシテ帝國議會ニ對スル方針條約改正ニ就テ本業ノ意見ニ係ル建議ヲセラレタリ帝國會議ニ對スルコトハ去六月常議會ニ提出セシ第七號議案ト同伴ナレハ是ヨリ議スルヲ以テ別段御意見ヲ問フ必要ナキモ條約改正ノ意見ハ本會之ヲ容レテ議題トスヘキヤ如何

書記 朗讀ス

一府十九縣酒造組合聯合會員有志意見書

我一府十九縣酒造家聯合會ノ起ル殆ント將サニ一年ナラントス願ミテ創立以來ノ事蹟ヲ見ルニ法律改正ノ事未ダ目的ヲ達セス事業ノ進步亦隨テ其意ヲ滿スニ足ラス蓋シ我會ノ罪ニアラス抑モ時之ヲ許サ、ル也ヤ帝國議會開設ノ期已ニ目前ニ迫レリ吾人參政ノ權ヲ推揮シテ其平生ノ意望ヲ請願シテ其目的ヲ達スルノ機ニ逢ヘリ且ツ夫レ條約改正ノ議ハ己ニ根底ヲ固メテ成スアラントス吾人此時ニ在リ實業上外交ニ關スル利害ヲ論述シテ政府ノ一顧ヲ求ムヘキノ要アリ豈ニ時ニ臨ンテ晏然タルヘケンヤ第二回常議會ニ於テ此等事端ヲ討究シ

本會平生ノ目的ヲ達スルヲ勉ムヘキナリ敢テ卑見ヲ陳ラ其運動費用ノ如キハ一ニ議事ノ上ニ決セン若シ不幸容レラル、ヲ得サレハ余輩有志獨行爲スノ外ナキナリ諸氏乞フ微意ヲ諒セヨ此段及建議候也

明治廿三年十月

一府十九縣酒造家聯合會有志會員

一條約改正ハ商工業ニ直接間接利害ノ及フ所大ナリ然ルニ此問題ニ對シテハ一ニ政黨ニ放任シ我商工業ハ恰モ對岸ノ火災視スルカ如シ視ヨ近口横濱ノ外商ハ不當ノ非議ヲ唱道シテ我國權ヲ侵害セントス我業直接ノ被害ナキモ間接ニ被ムル所ノ害毒年一年ニ増殖ス之ヲ推究スルニ條約未ダ對等ヲ得サルニ因ラズシテ何ソヤ我業ハ政府財政ニ至大ノ關係ヲ有スルモノ此時ニ當テ默々ニ附シテ休ム可ケンヤ依テ本業ニ係ル利害ヲ講究シ我業ノ意見トシ速ニ對等條約ヲ決行セラレンコトヲ其筋ニ陳請スル事

一相當ノ委員ヲ推選シテ陳情委員トシ西郷伯後藤伯青木子ノ三大臣ニ面謁ヲ乞ヒ親シク意見ノアル所ヲ陳辨シテ陳情書ヲ捧呈シ併セテ帝國議會ニ對スル庶務ヲ辦理スル事
十番(新潟) 贊成我々區々タル營業ノ一利害ニノミ奔走スルハ社會ノ思ワクモ如何ナレハ此際國家大問題ニ係ル對等條約ニ付意見ヲ呈出スルハ聊カ本業一己ノ利害ニ沈泥スルニ非

ヲサルコトヲ社會ニ知ラシムルニ至ラン況ンヤ本業ニ係ル利害ノ存スルモノアルニ於テオ
ヤ

二番(朽木) 賛成

九番(青森) 賛成

議長 衆員賛成ニ據リ本會ノ議題トシテ第八號議案トセン就テハ七號議案ヨリ議セン
書記 朗讀ス帝國議會ニ對スル提出案調査委員ヲ設クルノ可否

十一番(群馬) 賛成本會三月以來東奔西走臥薪嘗膽ノ艱苦ヲ冒シテ屈撓セサルモノハ諸氏
ト共ニ建言シタル素志ヲ貫徹セントスルニ在リ元老院ハ已ニ閉院トナレリ一層本會ノ基礎
ヲ鞏固ニシテ現時本業實況ヲ調査シ議會ニ建請スルコト本會ノ素願ナレハ速ニ調査委員ヲ
設ケテ實行シタシ若シ此件ニシテ本會否決スルノ不幸ニ遇フ時ハ本員ハ敢テ一府十九縣ノ
力ヲ假リズ群馬縣ノミニテ之ヲ實行スルノ決心ナリ

滿場賛成

議長 滿場賛成ニ付原案ニ決ス第八號議案ヲ議セン

二番(朽木)本業ノ意見トシテ陳請スルハ目下ノ急要ナレハ委員ヲ撰擧シタシ

滿場異議ナシ

議長 滿場賛成ニ依リ第七第八號原案ニ決ス委員ノ撰擧ヲ爲サン帝國議會ニ對スル委員ト
條約改正ニ對スル委員ト兼テ若干名ヲ撰擧方可ナラント思考ス如何

九番(青森) 別ニ委員ヲ撰擧センヨリ總テ幹事ニ依頼スルコトトシタシ

一番(埼玉) 幹事ニ依頼スルハ勿論賛成ナリ然シテ協議委員モアレハ此内ヨリ尙ホ兩三名
特ニ委員ヲ撰擧方可ナラシムカナレハ條約改正ニ付テハ至急ヲ要スル場合ニテ且ツ協議員中
未タ諾否モ明瞭セサルモノアレハ誰彼レト云ハンヨリ茨城縣淺氏青森縣野崎氏新潟縣小田
氏ノ三名ヲ委員トシテ幹事ト共ニ執筆セラレシムコトヲ望ム

滿場賛成三氏ノ承諾ヲ望ム

四番(茨城) 一ニ本員敢テ勞ヲ辞スルコト非ズ然レハ身多忙ニシテ諸君ノ推選ニ背カンヲ恐ル本
縣ノ熱心家眞壁ノ外地格太郎氏ハ誠意本會ニ盡力セラレ本縣ノ會合一度モ闕席セラレシ
ナク又常議會ニ於テモ然リ今回モ有志トシテ出席セラレタリ願クハ氏ヲ撰擧ケン

十番(新潟) 外池氏ノ熱心ナル本員モ敬服セリ然レハ滿場粗々同意ヲ表シタルコトニ又議
リ合アリテハ議了モ長ヒク恐レアレハ兎ニ角承諾アリタシ本員モ同業高橋慶次郎氏ナル者

ヲ薦メタクナレト姑ク諸君ノ意ニ從ハントス

九番 本員ハ殊ニ遠隔ノ地ニテ出京モ容易ナラズ恐ラクハ其任ニ當リ難カラシ諸君察セラレタシ

議長 三君御迷惑ナガラ承諾セラレタシ湊氏ノ御説モ眞ニ然リ外池氏ノ誠意盡力セラルハ本會モ能ク之ヲ知ル然ラハ補闕員トシテ湊氏出京セラレ難キ時ハ外池氏之ニ代ルトシタランニハ差支アルマシ如何

四番 然ラハ外池氏ヲ補闕員トスベシ然レト幹事ニ於テ專ラ擔任スルコト、シタシ

議長 野崎氏ハ如何コモ遠隔ノ所差支多カラントハ察セリ幸ニ姑ク御滯京ト承知スレバ條約改正意見書提出ノ如ク多ク日數ヲ費ス譯ニハアラサレバ承知アリタシ

九番十番 然ラハ條約ノ件ニ付テハ多數ノ日子モ要セサルニ付不肖ナカラ幹事ト共ニ其任ニ當ラン

議長 幹事ハ取モ直サズ常置トモ云ラヘキモノナレバ及ブ限リハ盡力セラレンコト勿論ナレハ適宜ニ處辨スルトシテ三氏ノ承諾ヲ希望ス

四番九番十番承諾ス

議長 三氏之ヲ諾サレタレハ引續キ實行スルコトニ決ス就テハ此二件ニ對スル費用ハ徑費ノ外ニ徴收方ヲ議セントス粗ホ豫算ヲ調ヘ置キタレハ本會經費ノ徴收方ト共ニ議スルトシテ體恤セン (正午十二時)

午后一時開會

番外 山梨縣同業萩原光太郎氏此程ヨリ出京セラレタリ然レト氏ハ該縣ノ代表ニアラサルヲ以テ出席ヲ憚ラレシカ縣内一部分ノ代表トシテ列席アルハ差支ナカルヘキニ付誘引セリ諸君領セラレタシ

議長 此ヨリ既往ニ係ル會計ノ始末等ニ付議事ヲ開シ

番外 既往收支始末ノ略ヲ述ル

第二回報告後收入セル金員ハ八十圓ニシテ二回報告ニ於ケル越高二十二圓六十九錢五厘ナリ右ノ内金十五圓ハ富山縣富山市酒造組合ヨリ寄附セラレタリ右組合ハ未タ常議員選定等ノ運ニ至ラズシテ會議ニ臨マレザルモ三月以降他府縣ニ於テ熱心ニ本業ノ爲メニ盡力セラレ、ニ同業トシ傍觀スベキ理ナキ故聊カ大ガヲ費用ノ一部ニ加ヘラレタレトノ旨ヲ以テ送付アリシモノナリ又支出ニ於テハ二回報告後十月迄ノ合計八十圓六十八錢トス内十五圓ハ

本會ノ母トモ稱スベキ三月大懇親會發起費ノ部へ貸ス此項ハ發起費中今ニ拂込ナキモノニ十五名バカリ有リテ決算上差支ヲ生シタルヨリ如此セシモ結局拂込ナキ時ハ懇親會主唱者ニ負擔セシムベシ又當六月ノ常議員會會議費ハ縣別割ノ方モ未タ拂ハザル縣アリテ此方へ四圓六十九錢ノ繰替ヲ爲セリ又去六月ノ陳情及獻白書起草等ノ費用モ未タ拂ハザル縣アルモ委員ノ請求ニ由リ十三圓八十錢ヲ繰替タリ此二口ハ追々取立創立費收入ノ部へ返却スル都合ナリ而シテ目下創立費當三月大會ノ決議ト六月ノ常議員會ノ決議ノ徵收額範圍内ニ於テ豫算ヲ立テ金井清水小山天野齋藤中山田邊ノ諸氏ヨリ繰替金ヲ乞フ高百四十五圓ニシテ是レ目下ノ負債トス然レモ三月大會ノ節自ヲ議員トナリ共ニ評決シ又支部、届出ヲナシタル縣々ニシテ今ニ拂込マレサルモノ金九十八圓五十錢陳情建白費ニ於テ三十五圓六月常議員會議費ニ於テ十六圓二十錢ノ未納アリ之ニ現在ト發起費へ繰替金ヲ合スレハ百八十六圓七十九錢トナル之ヲ以テ借入負債ヲ消却スル見込ナリ然ルニ數回ノ督促ヲ爲スモ送金セス又二縣丈ケハ支部ノ成リ立ザルモノアリ是等ハ到底徵收シ能ハサル場合ニハ如何スヘキヤ又第一回常議員會ニ議費ト陳情建書費ハ豫算ヲ以テ徵收セシモノニテ悉ク拂込アラハ收支差引二十圓餘ノ殘額ヲ生スベシ然レモ是ハ各縣殘ラズ拂込サレハ如何ニナルヤ未知可ラ

スト雖モ若シ殘餘アラハ多ク出シタル縣へハ割戻サ、ルヲ得ズ此邊ハ如何スヘキヤ至當ノ御評議ヲ乞フ就テハ建白書起草并陳情費等委員五氏ノ内ヨリ其遺拂ノ説明ヲ乞フ右陳述ノ詳細ハ此帳簿ニ就テ一々質問アラハ答フベシ就テハ以上説明ノ要項ヲ仮ニ分別シテ問題トスレハ

- 一 石川福島ノ如キ未聯合ナキ所ハ如何シテ徵收スベキヤ
- 二 六月常議員會費及陳情建白書費ハ未收入ノ縣ハ徵收シ既收入ノ縣ノ過金ニ係ルモノハ割戻スヤ否
- 三 其他一府十九縣聯帶費用未納ノ分徵收法

議長 第一項ハ如何處分スベキヤ

番外 兩縣モ三月大會ニ於テ議員トナリ評決セシ一人ナレハ創立費ハ負擔スルノ責メアルモノナレハ當時ノ委員へ請求スルヲ至當トス又既ニ支部等ノ設ケアル縣々へハ其支出ヲ乞フノ外アル可カラズ參考迄ニ述べ置ク

議長 一項ノ處分ハ番外ノ説明モアリ當時出京ノ委員へ尙照會シ其人ノ良心ニ問フノ外他ニ處分方モ有ル可ラヌ其上ノ事トシテハ如何滿員同意ニ付之ニ決ス

十番(新潟) 二項常議員會費及ヒ陳情建白ニ係ル費用ハ聯合府縣ニ分當シタシ其既ニ差出シタル縣々ノ過剩トナルモノハ割戻大方可ナラン而シテ三項モ同様齊シク徵收スルヲ至當ト思考ス

四番(茨城) 十番ニ賛成兎ニ角連帶ノ負擔ナルヲ以テ其未納ニ係ル縣々ハ徵收スル方至當ナラン

二番(埼玉) 割戻大ハ可ナルモノ不納縣ニ請求スルモ若シ應セサル時ハ如何

十番(新潟) 徳義上之ヲ拒ムト云フ事ハナカル可シ若シ徵收シ能ハサル時ハ次回ノ會議ニテ決セシ

議長採決 一同異議ナキヲ以テ四番十番ノ説ニ決ス

二番(栃木) 不足金或ハ負債等ヲ引繼クハ以後擔任者ニ於テ面倒ナレハ會計上ノ事ハ過不足ナシトシテ高崎氏ニ於テ是迄ノ未納ハ督促シテ集金シ其過剩及負債等ヲ返却スルトシテ創立ニ係ル會計事務ハ引繼ザルコト、シテハ如何

番外 是迄分擔費用徵收方ニ付擔當員ガ怠リヨリ未納ニナリタルニアラズ擔當員ハ相當ノ手續ヲ盡シタルモ種々場合アリテ決議ノ如ク徵收シ能ハサル次第ナレハ此上引受テ處分ス

ルト云フハ擔當者ノ迷惑ハ姑ク置キ實際爲シ能ハサル次第ナリ既ニ幹事等ノ役員選舉セラレタルモノナレハ引繼カレ新役員ニ於テ相當ノ處分アランコトヲ望ム

十番(新潟) 都合ヨク徵收スルモ尙幾計ノ不足金アルヲ故サテ不足金ナキコトニ引繼ヲ爲スハ不都合ナレハ過不足ハ明瞭ニ決算シテ帳末ヲ締メ括リ現在ノ有様ニテ引繼ヲ爲ス方至當ナラン

二番(栃木) 引繼ニナル時ハ幹事ニ於テ繁雜ニ勝ヘ兼ヌル故高崎氏ニ於テ徵收方ニ盡力アル様ニシタシ

十番(新潟) 繁雜ナル故決算ナリ如何ナルモ收支差引ナシトシテ引繼クハ穩當ナラス兎モ角モ幹事ニ引繼ク方ヲ可トス

七番(群島) 高崎氏ニ於テ引繼ナシタル故最早關係セスト云フ次第ニモアラズ一旦創立ノ事務ヲ終リ今回切り更リトナル場合ニ付引繼クコト、シ尙ホ高崎氏ニ於テモ殘務整理トシテ相共ニ盡力セラレタシ

番外 高崎ハ縱令事務引繼ヲスルモ諸君ノ都合ニ依リ更ニ依頼セラル、場合ニ於テハ決メテ勞ヲ辞スルニアラズ然レモ幹事ノ撰擧アリシニモ不均是迄擔當シタル事務ナレハ其結局

迄モ處理スベシト云フニ至リテハ服ス能ハス諸氏ノ内或ハ高崎ニ於テ越權ノ處置アル如ク
 推測ヨリ斯ル説モ出ツルナラシカ不肖高崎三月以來理事ノ任ニ當リ殆ント本會ノ責任ヲ一
 身ニ負フタル有様ニテ事務ノ處理上實ニ名狀スベカラザル困難ニ遭遇セリ然レモ長ハ知ラ
 レズ短ハ注意ヲ惹クノ虞アルヲ以テ兼テ創立委員ヨリ委任條件定メ委任狀ヲ申受ケ處分セ
 シモノナリ諸君ニ於テ別ニ疑心モアル可ラズトハ信スレモ念トシテ申置ク
 十番(新潟) 未納ノ縣々ヘハ怠ラス督促シ若シ今後不足ヲ生スル時ハ幹事ニテ立替ラル、
 一モアラン既往以後ノ不足ハ第三回ノ會議ニ付シ處分スル事トシテハ如何
 二番(栃木) 常議員會費陳情費等今更割戻スト云フモ手數ナレハ割戻サヌコトニシタシ
 十番(新潟) 割戻サ、レハ不衡平ノ嫌ヒアリ費用ノ如キハ殊ニ公平ヲ望ム
 九番(青森) 收支差引ヲ帳簿ニ明記シテ引繼ハ當然ノコトナリ今後至當ノ手續キチ爲スモ
 彌々徴收シ能ハサレバ其時附加徴收スルモ可ナリ縱令引繼モ高崎氏ハ放抛スル人ニアラス
 以前ノ如ク徴收方ニ盡力セラル、ハ本員ノ信スル所ナリ
 十番(新潟) 九番ニ賛成ス
 番外 未納費ノ徴收方ハ取ルヘキ分アルニアラズ取ルベキモノ、取レサルノ向
 ノ處分ヲ議セラレンコトヲ望ムナリ

議長採決 二三項ハ十番ノ説衆員賛成ニ付之ニ決シ又會計事務引繼方ハ過不足等帳簿ノ儘
 引繼コトニ決ス

番外 埼玉群馬山梨等有志諸氏ノ繰替金ニ係ル負債ハ當時高崎自身出張ノ上依頼セシ篤志
 ノ金員ナレハ其返却ノ責ハ殆ント高崎ノ一身ニ荷フ如ク未タ片時モ忘ル能ハサル次第ニ付
 一日モ早ク右諸氏ニ償却ノ取計方アル様特ニ希望ス
 十番(新潟)若未納金徴收不充分ニシテ早々返却ノ運ビニ至ラサル時ハ臨時會ヲ開クトモ返
 却セサル可カラサルモノナリ一步進メテ云フ時ハ相當ノ利子ヲ附シテ償却セサレバナラヌ
 モノニ付懸念ナキ様セラレタシ
 番外 滿場如此ナレハ安心ス
 十一番(群馬)十番ノ説ニ賛成ス
 議長 滿場異議ナク之ニ決ス是ニテ既往即チ創業中ノ事務ニ係ル會計ノ始末ハ議了セリ是
 ヲ以テ現今ノ徴收方ニ付協議イタサン
 十番(新潟)組合割則チ四分丈ケ此際徴收スベシ石數割六分ハ造石高屈ケ濟ノ上追テ徴收ス

ルコト、セン

議長 十番ノ説ハ滿場異議ナキヲ以テ之ニ決ス就テハ今會ノ費用且ツ引續運動スルニ付テ費用ヲ要スレバ只今出席員ニテ繰替出金スル方便宜ナランカ且ツ七八號議案ニ係ル費用ハ茨城縣栃木縣等ノ有志諸氏中幾許カ義捐金ヲサレントノ議モアリシガ先ヅ大畧ノ豫算ヲ調べタレバ之ヲ議セラレタレ

書記 朗讀ス(帝國議會并條約改正ニ付請願書捧呈豫算)

九番(青森) 此金額ニ通常經費ヲ合スレハ幾許トナルヤ

番外 六百四十二圓五十錢ナリ

九番(青森) 然ラハ十分ノ四ハ二百五十七圓トナレリ之ヲ二十組合ニ分割スレハ一府縣十二

圓八十五錢ナリ此際徴收セズンハ運動スル能ハサルベシ

二番(栃木) 二十割トスル時ハ又徴收ニ困難アルベシ現在取レ得ヘキ分ニノミ課ストシテハ

如何

九番(青森) 二府十九縣聯合體ノ本會ニ於テ議決セシ事項ニシテ平等ニ課セサルハ不都合ナ

ル若シ二十割トシテ其内異議ヲ唱ヘ出費ニ應セサルモノハ止ヲ得ズ其不足ハ次回ノ會議ニ

於テ處分スヘシ

十番(新潟) 九番ニ賛成ス若シ不足ヲ生シ徴收スル能ハザレハ其時有志ノ義捐ヲ募ルモ可ナ

ラン

議長採決 九番ノ説ハ衆員賛成ニ依リ之ニ決ス而シテ出席員中ニ於テ一時繰合即納スヘキ

ヤ

九番 目下直ニ費用ヲ要スル場合ニ付一府縣負擔分繰替ヘ出金スルコトニスルヲ可トス

滿場賛成

議長採決 然ラハ諸君ヨリ繰替即納スルコトニ決ス

會計委員、事務所地位、書記雇入、會報編纂委員等ハ總テ幹事ノ處置ニ任ヌコトニ決シタ

リ茲ニ於テ議事全ク結了シ金井議長ハ左ノ一言ヲ陳述シテ閉會ノ旨ヲ告ク

滿場ノ諸氏諸氏ハ生ノ不敏ヲ推シテ議長ノ席ヲ汚サシム其任ニ非ラサル或ハ其處ヲ失シ諸

氏ヲシテ不快ヲ感セシメタルコト往々ニシテ是レアリシナラン今ニ至テ赧然謝スル所ヲ知ラ

ズ茲ニ去ル廿二日ヨリ二日間第二回常議員會ヲ開キ各自銳意誠意ヲ以テ全ク議案ヲ決定セ

テレタリ回顧スレハ本會三月以來創設ノ形ヲ免レサリシモ各自ノ公事ニ厚キ尙ホ私事ノ如

久以テ今日初テ創設ノ中ヲ顛脱シテ獨立ノ体ヲ爲シ本業社會ニ雄飛シテ耻サルニ至レリ思
フニ諸君カ至誠ノ結果ニ因ラスンハアヲ大是レヨリ進ンテ本會ノ目的ヲ達センヲ又難キニ
非ラサルベシト是ニ於テ各議員一同閉會ノ式ヲ祝シテ退散セリ時ニ辰儀午後六時ヲ指ス

○確定議左ノ如ク

一府十九縣酒造家組合聯合會規約

第一章 總則

- 第一條 本會ハ一致共同營業上ノ利害得失ヲ攻究シ本業ノ福利ヲ増進スルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハ一府十九縣酒造家組合聯合會ト稱シ事務所ヲ東京府下ニ置ク
- 第三條 組合トハ一府縣内從來ノ組合ヲ合同シタルモノヲ謂フ
但止ムヲ得サル場合ニ於テハ一府縣内ヲ數組合ニ分ツコトヲ得
- 第四條 各組合聯合會議員一名ヲ出シ各自ノ組合ヲ代表セシム
但一組合員ノ遺石高二万石ヲ踰ユル毎ニ一名ヲ増出スルヲ得
- 第五條 一府十九縣ノ各組合ハ適當ノ規約ヲ設ケ事務所ヘ届出ツ可シ

第二章 役員

- 第六條 本會ニ左ノ役員ヲ置キ一切ノ事務ヲ處理セシム
 - 幹事 二名
 - 協議員 五名

書記

一名

第七條 幹事及ヒ協議員ハ議會ニ於テ議員中ヨリ互選シ書記ハ幹事之ヲ任免ス

第八條 役員ハ總テ名譽職トシ報酬及ヒ旅費ヲ給與ス書記ハ有給トシ任期ハ各滿一ケ年ト

ス

但滿期再選スルヲ得

第九條 幹事協議員及書記ノ報酬額及ヒ給料ハ議長ノ決議ヲ經テ之ヲ定ム可シ

第十條 幹事ハ本規約ニ順ヒ會務ヲ處理シ及ヒ諸般ノ決議ヲ執行スルノ責アルモノトス

第十一條 協議員ハ臨時必要ノ事件ニ就キ幹事ノ協議ニ關カルモノトス

第十二條 書記ハ幹事ノ指揮ニ從ヒ庶務ヲ擔當ス

第三章 經費

第十三條 本會ノ經費ハ聯合組合數ト各組合員前年度造石確定高ニ賦課シ毎年九月三十日

限リ前徵ス

第十四條 本會經費賦課徵收ノ責ハ各組合長ニアルモノトス

第十五條 毎年經費ノ豫算ハ議會ノ決議ヲ經決算ハ議會ノ承諾ヲ得テ之ヲ報告ス

第四章 會議

第十六條 會議ハ通常會議臨時會ノ二種トス

通常會ハ毎年四月臨時會ハ幹事協議員必要ト認メ若クハ議員三分一以上ノ請求アル時開

會スルモノトス

第十七條 會議ヲ開ク時ハ幹事ヨリ豫メ開會三週以前ニ會日及ヒ會場等ヲ各組合ヘ通知ス

第五章 雜則

第十八條 規約ハ出席議員三分ノ二以上ノ賛成アルニアラサレハ改正増補スルコトヲ得ズ

第十九條 議事細則ハ幹事之ヲ定メ議會ノ決議ヲ經ルモノトス

第二十條 事務所ニ使用スル印章左ノ如シ

雛形

一府十九縣酒
造家組合聯合
會事務所之印

一府十九縣酒造家組合聯合會二十三年度經費豫算

一金三百九十圓

經費總高

內譯

金三十五圓

通常會議費

但五日會場借家賃并ニ小使臨時雇人其他筆墨紙辨當費等ノ見込

金三十五圓

印刷費

但報告並ニ議案封筒其他印刷ニ係ル費用

金三十圓

幹事二名出京旅費

但一回往復平均五圓トシ三回分

金四十二圓

幹事二名滞在費

但一ヶ年三回一回ニ付七日間ツ、滞在ト見積リ此延日數四十二日一日ニ付一圓ツ

金九十六圓

書記俸給并雇給

金三十圓

事務所家賃

金三十六圓

通信費

金十八圓

筆墨紙費

金十八圓

茶炭油費

金十圓

備附品費

金十圓

廣告料

金十圓

雜費

金二十圓

豫備費

○本會經費徵收法

一金三百九十圓

經費總高

此徵收法ハ各組合ニ四分總造石高ニ六分ヲ賦課スルモノトス

(參考) 組合數ヲ二十、石高ヲ六十万石ト豫定シ一ヶ年一組合ニ付七圓八十錢一石

ニ付三毛九絲ニ當ル

一 帝國議會ニ對スル提出案調査委員ヲ設クル事

一 條約改正ニ付本業ノ意見ヲ陳請スル事

帝國議會并條約改正ニ付請願書捧呈費豫算

一金二百五十二圓五十錢

内 譯

金三十七圓五十錢

陳情委員日當

但各政黨團體政務調査所へ委員五名ヲ選ミ本業ノ實況ヲ陳情セシムルコト、此

日數二十日間

金三十圓

請願書起草費

但請願書起草者へ謝議

金拾圓

委員會議所家賃

但陳情委員會議所費消耗費迄一切見積

金七拾五圓

請願委員滞在日當及旅費

但請願書捧呈委員五名ヲ選ミ衆議員中ノ紹介ヲ經テ國會へ提出セシムル準備ヨリ

結局迄費用(幹事二名ノ分ハ除ク)

金二拾圓

請願調査費

但シ請願書類材料聚集其他一切ノ費用

金二拾圓

通信、印刷、筆墨紙費

但シ本件ニ係ル通信費並ニ報告書印刷費其他筆紙墨費

金五十圓

運動費

但府下各新聞紙へ論說ヲ掲載セシメ又ハ演說會ヲ開キ自然我業ノ希望ヲ公示シテ

社會ノ輿論ヲ喚起セシムルノ用ニ供ス

金拾圓

雜費

右費用徴收法ハ通常經費ニ準ヒ組合ニ四分造石高ニ六分ヲ課シ通常經費ト共ニ徴收ス

一 既往ニ係ル費用ノ收支過不足ハ決算ニ由テ其儘引繼シ事

一 既往ニ係ル未納費金ハ尙督促徴收スル事

一 事務所、書記雇入、會計主任、會報編纂委員ハ幹事ノ適宜ニ任ス事

○創業費第二回收支決算報告

創業費第二回收入之部

一金二十二圓六十九錢五厘
一金八十二圓

前回ヨリ越高
本回收入金

内譯

金拾圓

静岡縣支部第一回創立費拂込

金拾圓

岩手縣支部全斷

金拾圓

宮城縣支部全斷

金五圓

青森縣支部全斷

金五圓

枋木縣支部全斷

金二圓

茨城縣支部第二回創立費拂込

金二圓

岩手縣支部全斷

金二圓

神奈川縣支部全斷

金二圓

長野縣支部全斷

金二圓

山形縣支部全斷

金二圓

静岡縣支部全斷

金二圓

枋木縣支部全斷

金二圓

宮城縣支部全斷

金二圓

新潟縣支部全斷

金二圓

東京府支部全斷

金拾五圓

富山市組合ヨリ寄附

金五圓

秋田縣西村庄右衛門君ノ寄附

金二圓

山形縣増淵武兵衛君ノ寄附

合計金百四圓六十九錢五厘

收支差引金二十二圓七拾九錢五厘

現在越高

創立費第二回支出ノ部

一金八十一圓八十五錢

內譯

金七十三錢

金九圓十一錢

金壹圓六十三錢

金二十八圓

金二圓四錢

金十五圓

金四圓六十九錢

金十三圓八十錢

金壹圓五十錢

金三圓

金二圓三十五錢

第一回常議員會費收入之部

一金四十一圓九錢

內譯

金二圓八十錢

金二圓八十錢

金二圓八十錢

金二圓八十錢

金二圓八十錢

金二圓八十錢

金二圓八十錢

金二圓八十錢

金二圓八十錢

金二圓八十錢

金二圓八十錢

金二圓八十錢

筆墨紙料

郵便電信料

人力車費

六月ヨリ九月ニ至ル書記報酬

新聞紙及謝儀

發起費へ繰替

第一回常議員會へ繰替

陳情建白費へ繰替

事務所費

印刷費

臨時小集費

収入總高

静岡縣常議員ヨリ

神奈川全上

福井縣全上

東京府全上

埼玉縣全上

長野縣全上

宮城縣全上

茨城縣全上

山形縣全上

岩手縣全上

群馬縣同上

新潟縣全上

金二圓八十錢

金四圓六十九錢

第一回常議員會費支出之部

一金四十一圓九錢

內譯

金十七圓三十一錢

金二圓五十五錢

金一圓三十九錢

金四圓五十錢

金拾三圓八拾錢

金一圓五拾四錢

五十

枋木縣全上

經費ヨリ繰替

支出總高

會場借料

事務員及來客辨當料

事務員人力車

議場臨時書記雇給等

議案及報告書印刷費

報告書配付料

建白書起草及陳情委員費收入之部

一金四拾五圓三拾錢

收入總高

內譯

金三圓五拾錢

金三圓五拾錢

金三圓五拾錢

金三圓五拾錢

金三圓五拾錢

金三圓五拾錢

金三圓五拾錢

金三圓五拾錢

金三圓五拾錢

金拾三圓八拾錢

神奈川縣

新潟縣

枋木縣

宮城縣

岩手縣

山形縣

静岡縣

長野縣

茨城縣

經費ヨリ繰替

建白書起草及陳情委員費支出之部

一金四拾五圓三拾錢

支出總高

五十二

内譯

金四拾圓

委員へ渡シ分

金壹圓四拾五錢

寫字料

金壹圓八拾四錢

印刷費

金壹圓五拾六錢

郵稅費

金四拾五錢

車費

創業費收入未濟之部

一金百八圓五拾錢

未濟總高

内譯

金拾圓

東京府

金拾二圓

山梨縣

金五圓

神奈川縣

金拾圓

新潟縣

金拾二圓

群馬縣

金拾二圓

福島縣

金三圓五拾錢

秋田縣

金拾二圓

福井縣

金拾二圓

富山縣

金拾二圓

石川縣

金壹圓

千葉縣

金二圓

青森縣

金五圓

埼玉縣

(参考)東京府山梨縣群馬縣埼玉縣ハ有志家ノ繰替金アリ又秋田富山ノ兩縣ハ義捐金アリ

第一號

今回第二回常議員會ノ決議ニ據リ本會名稱ヲ一府十九縣酒造家組合聯合會ト改メ其規約ハ別紙確定議ノ通り決定候間此段及御通知候也

明治二十三年十月二十八日

事務所

聯合各組合御中

甲第二號

本會役員左ノ通當撰夫々承諾相成候

- 幹事 金井 貢君
- 全 小堀 貞吉君
- 協議員 門倉 多吉君
- 全 田邊 七兵衛君
- 全 和田 榮二君
- 全 大和田 貞次郎君
- 全 小山 又八君

陳請委員

- 全 金井 貢君
- 全 小堀 貞吉君
- 全 湊 仁右衛門君
- 全 野崎 和治君
- 全 小田 仁作君

右及御通知候也

明治二十三年十月二十八日

事務所

聯合各組合御中

第三號

今回第二回常議員會ノ決議ニ據リ本會經費及臨時費總高ヲ各組合ニ十分ノ四各組合員造石高ニ十分ノ六ヲ賦課シ九月三十日限リ前徴スル事ニ決定候ニ付テハ此際各組合連帶負擔分即チ十分四左記之通來ル十一月十五日限リ御差出シ有之度此段及御通知候也

金拾二圓八十五錢

二十三年度經費及臨時運動費
一府十九縣連帶一組合負擔分

五十五

追テ石敷賦課ニ係ル分ハ調査ノ上御通知致候

明治二十三年十月二十八日

事務所

聯合各組合御中

第四號

今回第二回常議員會ノ決議ニ據リ本會經費ヲ各組合ト組合員造石高トニ賦課スル事ニ決定相成候ニ付テハ其組合員ニ於ケル二十二年造石高ノ總計額至急御取調當事務所へ御差出シ相成度此段及御通知候也

尙々本會々員臺帳編成致度ニ付組合員ノ住所姓名併セテ至急御通知被下度候也

明治廿三年十月廿八日

事務所

聯合各組合御中

第五號

本會ノ輿論トシテ豫テ其筋へ陳請シタル稅則改正等ニ係ル件ハ尙ホ帝國議會ニ對シ請願候候ニ付テハ近日ノ内右陳請ニ係ル要旨ヲ調査シ各組合ニ參考トシテ御回送可致筈ニテ其組合各員ト御協議ノ上貴縣下選出ノ各議員ニ就キ充分意見ヲ叩キ本業ノ素願ヲシテ初期國會ノ議題ニ相成候様御盡力有之度此段豫ノ御協議致置候也

追テ各組合及組合員ニ於テ異見有之候事項ハ此際委員參考トシテ兼テ事務所へ御差出有之度候

明治廿三年十月廿八日

事務所

聯合各組合御中

乙第六號

本會事務所ヲ東京日本橋區橋町二丁目三番地ニ置キ候間此段及御報知置候也

明治廿三年十月廿八日

事務所

聯合各組合御中

第七號

爾來本會ニ關スル通知、報告、照會、等必急ヲ要スルモノ、外會報ニ掲載スルヲ以テ正式通信ト致候間右ニ掲載セル通信ニ付相當ノ御取計有之度候也

但會報ハ一ヶ年四回發行スルヲ以テ定限ト致候

明治廿三年十月廿八日

專務所

聯合各組合御中

號外

拜啓本會創立以來去ル三月總會并第一回常議員會ニ於テ決議相成候各支部連帶費用之儀ハ兼テ御照會致置候處于今拂込之運ヒニ至ラサル向モ往々有之候本會ハ元ト一府十九縣全体ノ同意ヲ以テ成立シ其議決スル處各府縣平等ノ負擔ニ歸シ其諸費ハ一時有志諸氏ヨリ出金セラレ候モノニ付今更申迄モ無之當事務所ニ於テ各部ヨリ御出金ヲ待テ精算ヲ遂ケ御報告可及答ニ候得共前述ノ如ク取纏リ兼候テハ當事務所ニ於テモ其道ヲ盡スノ期モ無之因却罷在候右ハ各支部會員諸氏ニ於テ夫々御事情モ有之御多忙ノ際終ニ今日ニ涉リ候事トハ確信仕候得共當事務所處理上ノ都合御推察被降度幸ヒ今回第二回常議員會ニ於テ別紙ノ通決議調査候間未タ御拂込不相成向ハ此際宜シク御取計相成候様致度尤昨今帝國議會開設ノ日モ追リ會テ議決ノ稅則改正等ノ儀ニ付事務多端ヲ加候ニ付一日モ早ク會計上處理致度候間至急御送ノ程希望候時下不順爲國家御 白 尋 車 一 三 御 出 候 爲 具

尙此上御出金相成難キ事情モ候ハ、其理由詳細御申出相成度次回常議員會ノ議ニ附シ

可申候

明治廿三年十月三十日

一府十九縣酒造家組合聯合會事務所

聯合各組合御中

第一回常議員會費未濟之部

一金拾九圓六拾錢

拂込未濟高

內譯

金二圓八拾錢

山梨縣

金二圓八拾錢

千葉縣

金二圓八拾錢

富山縣

金二圓八拾錢

石川縣

金二圓八拾錢

福島縣

金二圓八拾錢

青森縣

金二圓八十錢

秋田縣

(參考)山梨縣ハ有志家ノ繰替金アリ又富山秋田兩縣ハ義捐金アリ

建白書起草及陳情費收入未濟之部

一金三拾八圓五拾錢

未濟總高

內譯

金三圓五拾錢

東京府

金二圓五拾錢

群馬縣

金三圓五拾錢

福島縣

金三圓五拾錢

青森縣

金三圓五拾錢

秋田縣

金三圓五拾錢

山梨縣

金三圓五拾錢

千葉縣

金三圓五拾錢

埼玉縣

金三圓五拾錢

福井縣

金三圓五拾錢

富山縣

金三圓五拾錢

石川縣

(參考)東京府群馬縣山梨縣埼玉縣ハ有志家ノ繰替金アリ又秋田富山ノ兩縣ハ義捐金アリ

有志者繰替金負債之部

一金百四拾五圓

内譯

金二拾圓

金三拾圓

金二拾圓

金二拾圓

金二拾五圓

金三拾圓

繰替金總高

群馬縣金井貢君方

埼玉縣清水新七君方

全 小山又八君方

全 中山房五郎君方

東京府 齋藤 茂吉兩君方
天野鐵次郎

山梨縣田邊七兵衛君方

收支貸借一覽

受取 ~ キ 金 高

金百八圓五拾錢

金拾九圓六拾錢

金三拾八圓五拾錢

金二拾二圓八拾四錢五厘

金四圓六拾九錢

金拾三圓八拾錢

金拾五圓

合金二百二拾二圓九拾三錢五厘

差引金三拾六圓三拾二錢五厘殘餘トキルキ分

創業費收入

未濟

第一回常議員會

費收入未濟

建白陳情費

取入未濟

現在金越高

第一回常議員會

費~繰替金

建白陳情費~

繰替金

發起費~繰替

支拂 ~ キ 金 高

金百四拾五圓

金拾六圓九拾一錢

金二拾四圓七拾錢

有志家繰替金

第一回常議員會費

二割戻スキ金

建白陳情費~割戻

スキ金

合計金百八拾六圓六拾一錢

(備考) 一府十九縣連帶費用タルヲ以テ此一府十九縣ヨリ支出ヲ乞ヒ徵集シ終レハ本表ノ結果トナル若シ徵集シ能ハザル時ハ第二回常議員會ニ於テ評決ノ通り次回常議員會ノ議ニ附シ處分スルモノトス

又受取ヘキ金高ノ内拾五圓發起費繰替分ハ去三月大會ノ節ニ於ケル發起費中未タ支拂ヲ終ラサルモノアルヲ以テ一時經費中ヨリ繰替タルモノナレバ其發起費ヲ拂込サルモノヨリ徵收シテ拂戻ス見込ナリ然レバ若シ其人ニ於テ約ヲ履サル時ハ當時主唱者中ニテ辨償シ毫モ本會ノ損失ニ歸セサルナリ

○ 雜 記

●常議員會 豫期の如く去る十月廿二日より廿三日迄東京事務所に於て開會し本會規約、二十三年度經費豫算、同徵收法、帝國議會に對する請願書調査委員選定、條約改正ニ關する意見書提出、等の議案を決了し閉會を告げたり

●役員選舉 幹事に金井貢氏(群馬縣會議員)小堀貞吉氏(栃木縣會議員常置員)、協議員に門倉多吉氏(神奈川縣橫濱野毛町)田邊七兵衛氏(山梨縣東山梨郡七里村村長)田畑勝次郎氏(静岡縣濱松)大和田貞治郎氏(茨城縣石岡町)小山又八氏(埼玉縣北埼玉郡指扇村村長)同補欠員に和田榮二氏(長野縣更科郡八幡村)小田仁作氏(新潟縣南頸城郡高田町)の當選ありしが静岡縣田畑勝治郎氏は病氣の爲先辭したるを以て補欠員和田榮二氏を推選す、又條約改正に對する陳情委員に金井貢氏小堀貞吉氏湊仁右衛門氏(茨城縣會議員)野崎和治氏(青森縣第五十國立銀行支配人)小田仁作氏の當撰夫々承諾せり

●有志會 今回の常議員會は本會の素志を達すると否やの依て岐る、最も消長存廢に關する機會と際せるをて各地の有志の開會に先立ち上京し廿日より廿一日迄有志會を開く出席員は金井貢、小堀貞吉、湊仁右衛門、野崎和治、小山又八、栗林安兵衛、水谷龜藏(茨城

縣石岡町常議員代理)、大和田貞次郎(茨城縣)外池格太郎(茨城縣下館)、山本吉藏(茨城縣石岡町)、中森彦兵衛代理箕輪嘉久太(栃木縣足利町)、内木喜平(栃木縣河内郡藥師寺村)萩原光太郎氏(山梨縣東山梨郡平等村)の諸氏其他秋田縣西村庄右衛門氏代理千葉縣代理、岩手縣支部代理等にして帝國議會に對する請願委員條約改正に關する陳情委員等此事項を議し之を常議員會に建議し若し容れられざれば一府十九縣の有志を募り素懷を貫徹せんとのことありしが有志の論旨立るゝ常議員會の容るゝ所とあり扱ては第三回常議員會議決の結果を奏しぬ

●慰勞懇親會 今回の常議員會は創立後第二回の會議にして然も真正に聯合會を組織し創立の文字を脱却せし三月大會以來の盛事とて常議員及び有志諸氏は閉會を告ぐるや直に上野公園櫻雲臺に於て創業中諸般の事務に當り終に今日の結果を見るに至れりとして創立委員金井貢理事高崎修助の兩氏を招待し慰勞旁々懇親の祝宴を開きたり

●條約改正陳情 委員諸氏は閉會後引續き諸般の事務に執掌し第一着に條約改正の陳情を爲さんと陳情趣意書を起草す蓋し現時の條約にては外國輸入酒の海關稅は從價五分にして各國に比例なき低稅あるより近來輸入酒類の増額甚しく就中アルコールの輸入に至りては

東京府下は年々多額の燒酎を製出する土地あるに今年の如き復た昔日の狀を見ず門前將に雀羅を張るへたの有様に至り且居留地に於て清人が濫りに製造するもの有るが如き全く治外法權の制あるを恃むの餘に發するものあれば此際彼に一步を假借せず對等條約を決行せられんことを望むと云ふの意見にして去る廿八日金井貢小堀貞吉野崎和治小田仁作和田榮二の諸氏の外務大臣に面謁を請ひしが折節大臣には内閣會議に臨まざるに依り赤羽秘書官に面して縷々條約改正の意見を陳述し尙參考として一書を呈し夫れより後藤伯を高輪の邸に訪ひしは是亦閣議の爲め不在に依り執事を會して來意を述へ伯が在邸の日を報知せらるゝことを約して歸宿せり其口頭意見を陳述せし上差出せし陳情書の左の如し

外交條約ノ酒造營業ニ關スル陳情書

伏テ惟ルニ維新王政古ニ復リ王澤ノ霑被スル所百廢維レ興リ百度維レ揚ル今ノ時ニ當リ上下患フル所單々國權ノ張ラサル而已願フニ嘉永安政ノ際人味時濶リ約ノ適法ナラサル固ヨリ論スル罔シ今ヤ世進ミ勢遷リ立憲ノ大政已ニ定リ律令既ニ新ニ儼然トシテ萬邦ノ表ニ立ツ而ルニ外交之事尙嘉永ノ舊ニ仍リ又タ且ツ蹂躪ヲ免レス是レ世ヲ擧ケ身ヲ忘レテ痛憤慷慨スル所洵トコ國ヲ思フニ至誠ニ出ツ其言爲ノ偶マ激甚ニ失スルモノ亦宜也矣愚等退テ

窃ニ思フ明治中興ノ大業 閣下輔弼忠盡ノ効ニ成ル其殘弊陋習ヲ掃蕩シ益々國光ヲ顯揚シ
 其有終ノ責ヲ全フセラレシト既往ノ跡ニ顧ミ未タ嘗テ一日之ヲ忘レサル也抑モ廟謨朝議
 愚等ノ與リ知ル所ニ在ラスト雖生レテ盛世ニ遭逢ス藹言ヲ陳ヘテ清議ヲ煩ハサントスル
 モノ亦洵ト己ムヲ獲サルコト出ツ豈ニ敢テ世ノ蟬噪タル者ノ後ヲ追フヲ好マンヤ又タ夫ノ
 政治上ノ思想ヲ行テ廣ク外交ヲ論スルハ世自ラ其人有リ愚等敢テ此ニ嘖嘖スルヲ好マンヤ
 愚等唯々其我造酒營業ニ及フ利害ヲ陳情セント欲スル而已是レ先ツ姑ク大賢ノ洪量ヲ請ハ
 ント欲スル所也夫レ生産ノ多少ハ國家進度ノ淺深資本ノ厚薄天然ノ豐歉ニ由來ス給テ外
 邦ニ仰クカ如キ是レニ此レ因ル輸出入ノ不平均ハ經濟社會ノ通態固ヨリ以テ怪ムルニ足ル
 モノ無シ然レモ制度ノ當否、國家權力ノ強弱亦其消長ニ關ス本邦經濟ノ事單リ内治ノ制
 度ニ止マラズ外交ノ約ノ其當ヲ得サルモノ實ニ我經濟社會ヲ害スル大也愚等山野ニ生長
 シ國家ノ大勢ニ暗シ天下ノ全局ヲ將テ高議ヲ煩ス能ハスト雖正今其知ル所ノ一ヲ舉クレハ
 曰ク輸出入税ノ平等ナラサルハ條約ノ對等ナラサルコト也曰ク内國產輸出ノ多キヲ加ヘ
 セルハ彼レ關稅ノ輕カラサルニ因ル也内地營業者ノ年ニ減スルハ輸入額ノ多キニ因ル也曰
 ク居留外人ノ密造販賣ハ治外法權ヲ恃メバ也曰ク清人ノ日本酒ヲ模造シテ内地ニ輸セント

スルモノ輸入税ノ輕キヲ以テ也現條約ノ我酒類釀造ヲ害スル此ノ如ク其レ甚クシ矣之ヲ要
 スルニ條約改正ノ問題ハ天下ノ得喪因テ繫ル所其及フ所廣ク且ツ大ナル一業ノ上ニ及フ尙
 且然リ嘉永ノ舊ヲ撤シ國權ヲ回復セントスル者豈ニ故無カラシヤ夫レ嘉永安政ノ時ニ當
 リ我邦海關收稅ノ權ヲ訂ス揭ケテ條約ノ上ニ彰タリ然レモ辭ヲ搆ヘ口ヲ藉リ今ハ則チ一片
 ノ廢紙ニ屬シ前日ノ定法今ハ則チ徒ラニ紙上ノ價ノミ伏テ本邦通商貿易ノ狀ヲ見ルニ日本
 輸入税ハ僅々五分ノ低度ニ在リ是ヲ以テ東船西舶我海港ニ寄スル朝々暮々舳艫相脚ミ舶載
 ノ品舉テ如無ノ低稅ヲ以テ我ニ輸ス其一夕ヒ陸ニ上ル趨利ノ小賈國ヲ忘レテ之ヲ爭フ
 其勢ノ及フ所年ニ強キヲ加ヘ殆ント將サニ底止スル所ヲ知ラサラントス洋酒ノ輸入年
 ニ多キヲ加フルノ顯象ハ國民生計ノ華奢ト嗜好ノ心ニ因ルト雖正海關稅ノ低キ亦大
 ニ此勢ヲ助成シタルモノト謂フヘシ若シ夫レ其ヲシテ適度ノ稅率ニ在ラシメバ今日ノ如
 ク太シカラサル知ルヘキノミ謹ンテ我酒造制度ヲ按スルニ麥酒葡萄酒ノ如キ之ヲ課稅
 ノ外ニ措ク朝旨蓋シ内地ノ生産ヲ獎勵シテ輸入ヲ減セントスルニ在ラン而已此一部
 ノ特典ハ愚等清酒營業者ヨリ見ルキハ不公平ノ感ナキニ非スト雖正國產保護ノ策トシテハ
 朝旨ノ深キヲ忘レテ不平ヲ訴フルノ愚ヲ學ハス獨リ奈何セン此大策モ如無ノ關稅ノ爲メニ

障害セラレ常ニ外國品ト市場ニ争フ能ハス之ヲシテ大ニ其生産力ヲ伸張セシムル能ハサルニ至リテハ優渥ノ朝旨此ニ至テ内國人ナシテ其澤ニ浴セシムルノ道ナキモノ是レ條約ノ對等ナラサルノ弊ニ非ラスシテ何ゾ且ツ夫レ本邦農ヲ以テ起ツ輸出ノ報ヲ資テ米酒ヲ穀シテ他ニ致ス或ハ其レ利アラソ然レモ稅權ノ彼ニ強キ偶マ其志ヲ抱クモノナシテ其望ヲ遂ケシムル能ハサルノミナラス酒類ノ輸入ハ益々我清酒ノ減少ヲ來シタル一年殆ント十餘萬石、燒酎ノ如キハ其甚シキニ居ル茲ニ其源ヲ探究スルニ亦外品ノ制ヲ受クルニ因ル蓋シ彼レ無稅ノ品ヲ以テ如無ノ關稅ヲ負フ我レノ高稅ヲ負フモノト市場ノ勝劣較セスシテ知ル可シ夫レ利ニ奔ルハ人情ノ常、我ノ高キヲ棄テ、彼ノ低キニ就ク自然ノ勢今日本邦酒類減石ノ狀ニ馴致ス嗚呼亦條約ノ對等ナラサルノ弊ニ非ラスシテ何ソヤ其極ニ至リテハ上海香港ノ奸商彼地ニ在テ清酒ヲ模造シ輸入ノ企ヲ爲スアルカ如キ彼レノ意、日本海關ノ法弱シ以テ乘スヘシト愚等之ヲ聞ク未タ嘗テ浩歎大息セソノハアラサル也此ノ如キハ尙ホ忍フ可シ彼レ漫リニ治外法權ヲ恃ミ我法權ヲ蔑如シ居留地内ニ在テ密造ヲ爲スカ如キニ至リテハ其情ノ惡ム可キ復タ默スヘカラサル也押ヘテ之レヲ官ニ致サン乎其隱顯出沒制シ難キヲ如何ソ近口横濱ノ地一人ノ邦人外人ト相知ルモノアリ歡狎ノ餘彼レ陷スニ利ヲ以テシ以テ我清酒ノ法ヲ求ム邦人依違本心ノ感發スル所首スルニ其實ヲ以テシ又々其密造ノ事ヲ語ルコト愚等之ヲ聞テ痛憤ノ情ヲ抑ヘ事ニ託シ身ヲ居留地商人ト買スルノ風ニ扮シ其家宅ニ臨ミ親シク其狀ヲ見大法ノ普ク人ト地ヲ支配スル能ハサルヲ思ヒ悵然爲ス所ヲ知ラス漸ク其酒ヲ購ヒ歸ルヲ得タリ愚等内地營業者意中之苦、請フ少シク察ヲ垂レヨ其他外邦ノ奸商密造販賣利ヲ我邦ニ壟斷スル一ニ足ラス本邦酒造業ノ廢頽職トシテ是レニ此レ因ル願フニ本邦清酒造石高ハ地租ノ次ニ位ス我國庫ニ關係スル少ナカラサル可シ若シ夫レ今日ノ實況ヲ以テシテ曠日彌久之カ處ヲ爲サレバ復タ拾取スヘカラサルニ至ラン嗚呼條約ノ對等ナラサル我民利ヲ害シ民業ヲ傷フ此ノ如ク其レ甚タシ慨ニ勝フヘケンヤ抑モ條約改正之事天下與議ノ葵向スル所、國歩ノ張弛今日ノ一事ニ在リ若シ夫レ一步ヲ假借セバ我國權ノ伸張遂ニ其レ何レノ日ニ之ヲ得ソヤ抑モ今日之事社稷榮辱ノ繫ル所眞ニ是レ國家ノ大議也愚等敢テ廣議汎論セス唯我業盛衰ノ上ニ鑑ミ其所感ヲ陳スルモノ其自家所職ノ分ニ急ナレハ也

閣下其情ヲ酌ミ其言ヲ所ヲ察セハ幸甚愚等卑野文ニ嫻ハス神到而筆不隨伏シテ大賢ノ洪量ヲ待ツ威尊ヲ濱冒シテ惶懼己ム無シ頓首再拜

○富山市酒造家組合事務所 富山縣ハ北僻不便の地にまて未だ全縣下聯合の氣運に至らず

然れ共富山市の酒造家は今日の時勢に顧み先き一府十九縣聯合の議起るや進んで賛成を
表し内も在りて充分盡さるゝ所あるも地勢上縣下各郡との連絡を通し難く爲一縣の代表
たるべき常議員の選出を得ず未だ會議に列するの場合に至らざりしが自家内部の故を以て
聯合諸氏を煩すは本意にあらず幸に運動費用の萬一もとて金拾五圓を送られたり同市同
業諸氏が約を踏て此事ある集會の節其書を展へて満座其義氣を感じあへるも理なり

○又た 秋田縣に於ては今回改正酒造税則に伴ふて縣下營業人心得書等の改正あり爲めに
營業者諸氏は上京を得ず出席員中へ代表を託せんとて委任狀を添へて其旨同縣山本郡酒造
組合行司西村庄右衛門氏より申出られ尙會費補助として金五圓を送らるゝ又た山形縣東置賜
郡にても同様の旨を寄附金貳圓を添へて同郡酒造聯合會より申出られたり

○送金手續 本會々費等の從來事務所へ宛て差立てられしが今回第二常議員會開會の節幹
事の協議より依り本會に收入の金員は一切日本橋區青物町第五十國立銀行支店に其保管を
託したるを以て凡て事務所へ拂込の金員は同支店へ振込するべし

○居留地釀酒の事は是迄耳にする處たりしが彼の治外法權の障屏あるが爲めに政府も其
處置に苦み今日に至る迄未だ世上に發せざりしが今回本會が外交上の件につき當路も陳情

するに當り委員に居留地密釀の實況を偵知せんとて横濱港に至り百方手を盡き密造酒購
求人の外裝を爲し支那某商館に至りたるに彼れ利を見て他を知らず製造場も導き壺も藏す
る蒸溜酒を示せり其價を問ふ一壺九升を容るゝ者一圓三拾五錢其度數八九度甘味を帯ひて
少く臭氣あり委員諸氏は其會聞の虚ならざるに驚きたるも如何ともすべからず痛憤の情を
抑へて右の酒類二壺を求めて歸京し各役員も示して共々外人治外權を恃むの餘弊此に至れ
るのと大息えて立別れたりと尤も其酒類は其筋の人より向い外交條約の對等からざるより我
酒造上も及ばず利害を論述するも當り至極の材料を與へたるものにて委員諸氏が苦心用意
の程察すへきあり其他西洋人の中にも此れと同様の好を爲すものあり何れも房總等船舶寄
港の地に潜輸して販賣すと云へり

○今日の同業者 輕乎重乎我之を言はず他の見る所に任せんのみ近比は帝國議會の開會前
とて議員達は夫々政務調査所に在り自朝至暮現行の法律に就き財政家は眼を歲計豫算の上
に凝し外交家は心を條約書の面を注ぎ各其堪能を盡して天下を一局の中に經綸せんと盡す
るの時なり我一府十九縣酒造家組合聯合會は議員諸氏が我酒造税則に關する意見を聞か
れやとて委員の手を携へて衆議院議員某氏の寓を訪ひ酒造税の重課なる事に就き從來の經歷

より説き起し今日の景勢に及ばざる熱心に談論を試みしに某氏の徐るに答て曰く帝國議會開會の眞先は顯はるゝは地租の輕減あり此問題は政府も亦焦思せらるゝ所にして實に上下の大問題あり然れども我國の財政の重く直税特は地租を以て維持するものあれば若し之れを輕減せんは其填補を他より求むるか又は良新税を置のざるへからず然れども今日の國狀新稅説の其基址を立つるの處を勢ひ間稅の重なるものゝ稅率を増加し一方の削減を償はざれば其目的を達せへからず故に政府若し地租の輕減を容るゝに至らば補填を求むる其れ或は酒造稅をらん乎此説は近比或る部内に行るゝ説なれば酒造業者が法律の改正を要求せんと欲せば宜しく覺悟する處有べしと語られたる由此事は私事の坐談と雖も亦據あるべし本會の決に依り各支部を前々より法律の改正を建白す今日復た聯合名を以て帝國議會に請願せんとするもの蓋し無謀の策にあらず此風説を得て其徒ならざるを見るべし抑も國會の要りどころ申すへければ言はるゝ國會は實業者の注文先あり我會の設け蓋し此等の用は應せんのも爲也夫れ本邦歳入表中最多の地位を占むるものは地租は次くものは我酒造稅あり負擔の分多し利害の感亦大なり會員諸氏が本會に於けるの情は己も既往の蹟は保明せり然れども自信教人心は世道の經あり諸氏の自信厚きを以て復た他人を導き斯業の爲めに盡さるゝ事本會の希望する所なり彼の釀造高一石一厘内外の費を齎す汲み内、一家の營業に従ひ外、斯業の盛を顧みざるが如きは我堂々たる酒造家の爲ざる所、諸氏各全業家を懲過せらるゝに至らば一呼の下に應せんのみ近時全國各地の菓子商が大に同志を糾合して爲すあらんとす夫れ小兵既に死を決す將帥の地にあるもの豈は悠々陣營の中に在るべけんや本會は旗幟を翻して諸士の來るを待てり諸氏夫れ小兵の爲を視、些の軍費を吝んで敗を取らざるや又本會平生の設け今日の際に處するに在るを忘るゝ勿れ

25-45